

平成26年度「チャレンジテスト」検証シート

学校名 **大阪市立矢田西中学校**

【 第 1 学 年 】

生徒数(人) **36**

平均得点(点)

	国語	数学	英語
学校	62.4	52.2	59.1
大阪市	61.8	52.6	66.9
大阪府	63.2	53.7	69.3

平均無解答率(%)

	国語	数学	英語
学校	6.9	6.3	8.1
大阪市	5.8	6.0	5.1
大阪府	5.4	5.9	4.9

結果の概要

国語では、大阪市平均を上回っており、「話す・聞く能力」・「読む能力」で大阪府平均も上回っている。数学では、大阪市平均とほぼ同じになっている。「数学的な見方・考え方」で大阪府平均も上回っている。一方、英語では、大阪市平均を大きく下回っており、苦手意識ができてくる。「書くこと」や「外国語表現の能力」の得点率が低い。

成果と今後取り組むべき課題

大阪市平均を上回っている教科があるものの、英語を中心にまだ基礎・基本の定着が不十分な生徒の割合も多い。生徒の実態に沿ったきめ細かな授業を実施し、基礎学力の定着、応用力の育成を図る。生徒が明確な学習意欲を持って授業に参加し、学力の定着が図れるよう引き続き最善の学習効果を目指し、指導方法の改善を進める。また、家庭と連携して、基本的な生活習慣の確立を図り、家庭学習の習慣が身につくよう指導する。

【 第 2 学 年 】

生徒数(人) **49**

平均得点(点)

	国語	社会B	数学	理科A	英語
学校	60.0	41.8	42.7	39.4	47.2
大阪市	61.3	43.9	47.0	43.8	52.5
大阪府	62.9	46.6	49.4	45.4	55.0

平均無解答率(%)

	国語	社会B	数学	理科A	英語
学校	4.5	6.5	5.0	3.7	3.0
大阪市	6.2	8.0	8.3	5.3	4.0
大阪府	5.3	7.6	7.5	4.7	3.8

結果の概要

全教科とも大阪市平均を下回っている。国語や社会は大阪市平均との差が小さいが、他の3教科については、4～5点の差がある。平均無解答率は各教科とも大阪府・大阪市平均よりも低く、最後まで努力する姿勢が見られる。

成果と今後取り組むべき課題

基礎・基本の定着が不十分な生徒の割合も多い。生徒の実態に沿ったきめ細かな授業を実施し、基礎学力の定着、応用力の育成を図る。生徒が明確な学習意欲を持って授業に参加し、学力の定着が図れるよう引き続き最善の学習効果を目指し、指導方法の改善を進める。また、家庭と連携して、基本的な生活習慣の確立を図り、家庭学習の習慣が身につくよう指導する。